



【学校教育目標】 社会や人との関わりの中で 真の逞しさを身につけた 児童生徒の育成

令和 5 年 8 月 24 日  
京都市立東山泉小中学校  
校長 岩田 智典

# 泉だより No.6



## 粘り強く！あきらめない！（男子ハンドボール部）

9年生にとって部活動の最後の大会である夏季大会やコンクールが行われました。どの部活動も一生懸命、最後までやりきったと思います。その中で、今回は男子ハンドボール部の紹介をしたいと思います。（HP より抜粋）



7月16日（日）、灼熱の太陽のなか、洛星中学校と試合を行いました。試合開始から終始1点を争う好ゲームとなりました。前半は8-9とリードされましたが、後半は一進一退の攻防が続き19-19の同点。試合は延長戦へ！延長戦に入っても1点を争う緊迫した状況。延長戦後半、総力戦で逆転し23-22という接戦をものにし、見事勝利しました。

7月17日、四条中学校との準決勝がありました。四条中学は秋の新人戦で13-26とダブルスコアで敗退した相手です。常に先行を許す苦しい展開の中でしたが、ラスト5分で3点差を追いつき同点、試合は延長戦へ。延長戦でも決着つかず、7m スローコンテストへ。最後に、東山泉のキーパーがナイスセーブ！続く東山泉のエースがしっかりと決め、激闘を制しました！

スポーツの勝敗の形には様々ありますが、このように接戦を制するチームの要因は何なのでしょう？9年生の部員に勝因を聞いたところ「勝てると信じていた。だからあきらめなかった。」という答えが返ってきました。接戦の際の勝敗は「時の運」もあり、絶対的なものではありませんが、その要因に間違いなくあるものは「挑戦する気持ち」「自信」「粘り強さ」「あきらめない心」などです。この力は「非認知能力」と言われるもので、すぐに身に付くわけではありません。ヘックマンという学者は5~8歳ぐらいから身に付け始めると言っています。東山泉の学校教育目標は「社会や人との関わりの中で真の逞しさを身につけた児童生徒の育成」を掲げています。部活動という学校教育の一部ではありますが、東山泉の目指す児童生徒の「真の逞しさ」を体現してくれた男子ハンドボール部でした。



## 夏季教職員研修会(京都産業大学 西川信廣教授をお招きして)

8月21日、教職員研修会を行いました。研修会は様々な分野で行っていますが、今年度は10周年研究報告会（10月28日）にてご講演して下さる、京都産業大学の西川信廣教授をお招きして「5-4制小中一貫教育の意義について」というテーマで研修会をしていただきました。東山泉小中学校も開校10年目を迎え、教職員が入れ替わる中、東山泉小中学校という学校がどうして生まれ、何を大切にしなければならないかを再確認し、そしてこれからこの学校が何を目指していくべきなのか、を全教職員で共通

理解するのがねらいです。西川先生は以前、京都市で「小中一貫教育全国サミット」が開催されたおり全体会の講師を務められ、東山泉にも開校時から何度も訪問して下さっています。10年目の節目を迎える中で、「不易流行」を合言葉に教職員が元気づけられる研修会になりました。